

平成 23 年度小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会

第 1 回アドバイザー会議 議事概要

平成 23 年 9 月 14 日（水）10：00～12：15

（一社）日本森林技術協会 5 階会議室

1 利用ルールについて

（1）傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果

- ・世界遺産に登録され、今後、観光客の増加が見込まれる中で、指定ルートの利用者数に大きな変化が見られなければ、現行通り月 1 回のモニタリングで構わない。

（2）聳島における利用ルールの取扱い

- ・オガサワラスナハキバチの巣穴は概ね確認したものの、台風や出水等の影響で巣が移動する可能性があるとともに、閉じた巣穴の上を気づかずに歩けばオガサワラスナハキバチの生育に影響を及ぼすおそれがあるので、これらを把握するためにも試行期間の延長が必要。
- ・砂浜のルートを示すため色塗りの石を設置しても、台風等の影響で埋もれたりすることがあるので、直ぐに確認し、必要があれば直すことが大切。
- ・ガイドがオガサワラスナハキバチの存在を気に懸けるようになれば、利用によるオガサワラスナハキバチへの影響が相当軽減できるので、ガイドに対する周知の徹底が大切。
- ・小笠原森林生態系保全センターと小笠原観光協会・ガイドとの連絡調整を十分図るべき。
- ・ルート沿いの立木が成長して歩行の障害となっている場合、それを避けて歩行するとなれば、ルートの拡張が懸念されるので、希少種でなければ障害となる立木の枝払いを行うべき。
- ・聳島に限らず、指定ルートを利用するに当たり、立木が成長して歩行の支障となる場合の対応方針をまとめるべき。
- ・観光客にアンケートを取り、聳島の保全と利用に関する考えを把握しておくことが必要ではないか。
- ・平成 24 年 9 月末まで試行期間を再延長することを了承。

2 平成 23 年度固有森林生態系の修復事業等

- ・林野庁の事業には鳥類に関する事項が多くあり、生態系の保全という観点からバランスに欠けているように思われるが、何か意図があるのか。環境省、東京都等とも協力してバランスの取れた事業を実施してほしい。
- ・森林生態系保護地域において、林野庁として何がしたいのか、何を目標とするのか、全体計画を立てる議論がこの会議の中で必要ではないか。
- ・現在の外来種駆除事業は、1 年目に駆除予定木調査をし、駆除計画を立て、その 1 年後に駆除を実施しているが、例えば属島や奥地等では予定木調査と駆除を同時に実施する等して、今後はスピードアップを図り効率の良い駆除方法を検討すべきである。
- ・予定木調査、駆除と実施しているが、調査に労力と経費がかかりすぎているのではないか。調査ではφ 5 cm 以下も把握しているが、効率的にφ 5 cm 以上のものだけを調査すれば良いのではないか。

- ・各事業の検討委員会を現地で実施する等、現場の声を聞く体制を作るべきである。
- ・また、検討会が設置されていない事業は、どこかでレビューし、成果をフィードバックして活用する必要があるとともに、検討会を事業毎に行うのではなく、各機関が連携して開催するなど効率的開催についても考えてもらいたい。

3 小笠原森林生態系協働プロジェクトの新規案件等

- ・プロジェクトが増えていった場合に、各事業の内容や方向性の善し悪しはどこでどのように検討していくのか、対応を検討する必要がある。
- ・各事業の目的、目標と具体的な活動計画を明確に記載した方が議論しやすい。
- ・ボランティアベースでプロジェクトを継続できなくなった場合にどのように対応するのか、考えておく必要があるのではないか。

4 その他

(1) 人工水場の再配置

- ・人工水場を置くことにより、鳥が集中するような場所ではノネコによる被害が増加すると考えられるが、そのような被害が見つかった場合は、設置の場所や高さ等の再検討が必要である。
- ・センサーカメラを人工水場の近くにも設置し、観察してはどうか。

(2) 奥村地区の避難路の整備

- ・奥村地区の避難路の整備については特段の意見がなかった。

(3) 活用案件

- ・同じ島内でも、土の移動は同時に種子や外来種の移動も伴うため、慎重に行うべきである。
- ・全ての案件でアドバイザーの意見が、植物の観点からしかなされていないので、少なくとも昆虫、貝類の観点からも見るべきであり、アセスメント等を適切に実施した上で、工事の可否について検討すべきである。
- ・アドバイザー会議としては、今回の報告だけでは活用案件について了承できない。

5 欠席したアドバイザーからの意見

- ・希少陸貝の母島で最も重要な生息地がアカギのほぼ純林といえる場所にあることが判明した。現段階で、アカギ駆除の優先順位が高いとは思えない地点であるが、万一、この地点でのアカギの駆除を行うと、種の絶滅につながる可能性がきわめて高い。今後のアカギ駆除に際しては、引き続き、駆除予定地域や計画の情報を事前に知らせてほしい。